

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790800292		
法人名	医療法人 嘉誠会		
事業所名	認知症高齢者グループホームヴァンサンクソレイユ		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護 (介護予防)短期利用認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東住吉区湯里1丁目18番12号		
自己評価作成日	令和2年9月27日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2790800292-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)
訪問調査日	令和2年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☆入居者、家族、スタッフが居心地良く過ごせる場所であり良い関係性であること
☆スタッフが入居者想いで優しい考え方をもっているところ
☆スタッフに活気があり笑顔で対応できる所、スタッフ同士の関係性が良く助け合える所
☆ご家族の皆さんがソレイユの運営に協力的であるところ
☆ケアプランは本人を主体とし3ヶ月に1回更新し具体的に立案できているところ
☆医療職としっかり連携出来ており安心して過ごして頂けるところ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の医療を支える医療法人を母体に、地域住民の医療とリハビリと介護の連携を図りつつ、健康で楽しみのある生活の継続が図れるよう開設されたグループホームです。静かな住宅街の中に溶け込む、落ち着いた雰囲気のある建物です。近くの小学校の校庭がホームの窓から見え、子供たちの元気に走る様子が見られます。「皆が居心地よく、安心して暮らせる思いやりのあるホーム」という分かりやすい理念は、法人の理念を基にホーム長と副ホーム長の二人が、介護現場の経験を活かして考案し、介護に活かされています。ホーム長の意向と方向性が職員間で共有され、介護に浸透しています。また、できることは自分という、利用者の自主性を尊重し、日常生活のすべての動作を生活リハビリと捉え、個々の能力を活かし、利用者自身のリズムで自由に生活ができています。介護計画書は3ヶ月に1回、また状況の変化に応じて見直され、きめ細かい本人本位の介護計画書となっています。介護目標と介護計画内容の達成度が毎日チェックされ、ブレない介護が提供されています。ホーム長が職員を大切に、職員が利用者を想うホームは、利用者と家族と職員が安らげる、笑顔あふれる暮らしの場になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の朝礼や業務内、またスタッフからの悩み相談時にソレイユの理念を意識的に引用し、スタッフの共同・共感に繋げるよう実践しスタッフも理解出来ている。	誰にも分かりやすい、5項目にわたる理念には『①居心地よく安心して暮らせるホーム ②自主性を尊重しその人らしく ③地域との交流、開かれたホーム作り ④助け合い、認め合い、許しあい ⑤真心をこめた「だいじょうぶだー」「まかしとき」』の精神が盛り込まれています。朝礼、ミーティングでも確認し、相談時には引用して話し合っています。玄関にも理念が掲示され、家族や地域の方、訪問する人誰にも理解されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策によりホームとして来館者の制限・外出の中止等行っており、地域の行事も中止となっているが、日常的に文章や電話、また立ち話などお互いの状況など情報交換を行っている。	町会に加入し、老人会のほか、運動会、夏祭り、敬老会、地域のふれあい喫茶等に参加しています。日常的に挨拶を交わし、声をかけ合っています。ホーム長は地域住民のホームに対する理解に感謝しています。コロナ禍で来館者が制限されたり、来館中止となったりしたので、文章や電話などで情報の交換をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェでソレイユで起きた事例を元に支援方法等について検討したり意見交換を行っていたがコロナにおいて現在は実施出来ない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年1月開催までは普段の会議形式で行っていたが、以降はコロナ対策により文章開催としている。話題は主にコロナ感染の防止となっており、ホームで出来る予防を最大限に行うと共に、自粛生活の中入居者のストレスが溜まらないよう日向ぼっこや歌をうたう、また体を動かす機会を増やしサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、コロナ禍以前は10人の出席を得て開催され、活動状況、入居者情報、取り組み、意見等を議題にしています。町会の方より「ホームと地域の信頼関係が築けてきた、認知症の方は、慣れるのに時間がかかるのを踏まえた上で、地域との関わり方を考えても」と、認知症の理解も得られて今後の地域との関係性にも活かされます。	

己 自 部 外		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括スタッフと運営推進会議において、文章で意見交換を行い、ホームの実情をオープンに伝えアドバイスをもらう等している。市町村担当者には解らないことがあれば質問し円滑に業務が行えるよう努めている。	運営推進会議において意見交換をしたり、ホーム長はグループホーム連絡会に参加し、積極的に介護保険課や大阪市の担当者と情報交換や相談をしていて、今後もより良い協力関係を築き、連携を深めていく考えです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や生活リスク検討委員会、入職時研修を通じ身体拘束禁止事項については正しく理解できるよう繰り返し指導・学習の機会をもうけている。離設や事故防止の問題もありユニット扉や玄関は施錠しているが入居者の状況を踏まえ開放したり付き添いするなどして柔軟に対応している。	生活リスク検討委員会を毎月開催し、身体拘束ゼロの手引きで勉強会をしています。職員の困っている事にも触れ話し合っています。フロアドアや玄関には、入居間もない人などの多動による危険回避のため施錠しています。利用者の希望に添って、時間を作り、都度散歩等の外出の対応をしています。	近隣の人との関係も深まっています。玄関の鍵についても理解を求め、見守り、声掛け、連絡等をしてもらえることで、鍵をかけない自由な暮らしに向けた取り組みが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じ資料を用い繰り返し学習する機会を持っている。委員会の中でも虐待につながりそうなケース(入居者や家族・本人の気持ち)を確認しケアの見直しや、また医療職に相談等行い、ご家族へも報告・相談を行うと共に協力を得て虐待につながらないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在3名の方が活用している。適宜家族及び後見人と情報交換を行っている。制度の詳細は分からないこともあるがご家族から困りごと等相談があった際は制度について紹介するなど行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約また改定等の際は、事前に口頭や文章で説明を行い管理者が基本的に窓口となり対応している。疑問や質問があれば電話や面会時に答えるようにして理解を得ている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム玄関に設置したり、運営推進会議の活用、また日々入居者家族の意見・要望があれば、その都度検討・対応し必要であれば他者・家族にも伝える形で実行できている。	運営推進会議で意見、要望を聞いたり、家族の面会時に聞いたり、意見箱の設置、アンケートを行うなど色々な機会に意見、要望を聞いています。寄せられた内容や結果は申し送りノートに記載し、職員間で情報を共有しています。家族には、写真入りで広報誌に掲載しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	可能な限り運営に関してスタッフから出た意見や要望を聞く機会をもうけ検討しスタッフのやりがいに繋がるよう努めている。	仲よく、助け合い、許し合う理念の下、フロアー会議、リーダー会議、朝礼、ミーティング等々、いつでもどこでも意見を出し合い、運営に反映させています。コロナ禍の中、利用者のストレスを軽減する様々なアクティビティのアイデアが職員間から出され、実施しています。職員間のチームワークや情報の共有については、家族からも評価されています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業規則を元に適切に対応し、コロナの時期においても特別休暇や手当等の基準を設けるなどして、職場環境や条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1人のスキルアップに繋がるよう法人内で人材開発室を立ち上げスタッフのキャリアや立場などに応じて研修できるよう体制を整えている。しかし入職者が続かない状況にありスタッフ数が減少していることが課題。教育面に力を注ぐ必要がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区GH・小規模多機能連絡会や東住吉区ケアマネ連絡会への参加を通じて他の事業所と情報交換し、お互いに協力し合いサービスの質を向上していくよう取り組みに参加できている。何でも相談できる関係にある。	

己 自部 外	項 目		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご家族・入居者本人にホームを見学してもらい、困っていることや要望を聞き取りしご本人と面接するなどしてニーズの把握や初期の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があれば家族、また在宅CMと共にホームを見学してもらい、利用ニーズや心身状況・医療情報など聞き取りを行いホームで出来る事出来ないことを説明する等の機会を十分にとり、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する段階で事前に聞き取りしていた内容から暫定ケアプランを作成、またその他大枠のケア内容はスタッフとも情報交換・意見交換を行い決めておき、初期の対応時に安心して過ごせるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の心身機能や状態にもよるが、食事の準備・後片付け・洗濯物を干したりたたむ等出来る事を一緒に日々実行している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ対応で面会を制限しているため、直接的な支援は行えないが、電話で入居者とお話ししてもらったりお菓子などの差し入れを持ってきてもらう、また入居者の様子をスタッフから連絡する等して共に本人を支えていく支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在外出はできないが、ご家族や知人からの電話を取り次いだり家族からの要望で家族宛に手紙を書く等して関係が続くよう努めている。	コロナ禍で外出の機会が持てない、家族の面会もできにくい中で、玄関横の小さい窓には、「小窓の面会」ができるように配慮されていて、感染への配慮がされています。また、家族へ手紙を書き、家族から葉書の返信がある等関係性が保たれて、利用者の安心に繋がっています。	

己 自 部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性・出来る事を把握し、内容によってメンバーをかえるなどして楽しみを作り、また個人が孤立しないように気をつけている。入居者全員が集まって定期的に歌をうたう機会をもつ関わり合える支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等の時は、病院・家族と治療の経過や本人の状態・家族のニーズなどやりとりはあるが、退去されてからはお支払い等の連絡確認時にご本人の現状を聞く程度でそれ以降のやりとりは稀に行う程度である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の発言や過ごし方、ご家族との情報交換での聞き取りなどで暮らし方の希望や意向を把握し、本人本位に考えるよう心がけている。	家族から暮らしの意向や希望を、都度の聴き取るほか、利用者の表情や動作、何気ない会話からも把握し、その様子を介護記録に残し、職員で共有しています。多数の職員の気づきにより、色々な角度から、本人を主体にした意向や希望の把握ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークでの聞き取りに加えご家族様アンケートや日々ご本人やご家族から聞き取る等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察・記録・申し送りや3ヶ月に1回ケアプランを見直す際、ICFステージングでその時々の入居者の状態や有する能力等把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、またケース担当者が中心となってご本人やご家族の意見を踏まえご本人の課題・目標やケア内容を検討し、訪看や連携しているリハビリ・栄養士スタッフの助言も踏まえケアカンファレンスを行いスタッフ皆の意見やアイデアを反映しケアプランを作成している。	家族の意向、要望を確認し、協力医療機関や訪問看護、リハビリ、栄養科等の意見を踏まえ、カンファレンスを開催し、意見を出し合います。アセスメントを行い、本人本意の介護計画書の作成を行っています。計画書は3ヶ月に1回の見直しと、状況の変化により、都度見直し作成されています。毎日、介護内容達成確認と目標達成のチェックが行われ、モニタリングされています。	

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日介護記録に記し、プラン内容はモニタリングチェックで毎日実施状況をチェックし毎月満足度等を記録している。毎日の申し送りや特記事項を記したノート等で情報を共有しながら少なくとも3月に1回はケアプランを更新している。しかしカンファレンスが時間がかかりすぎることがあり課題に残る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの決まり事を押しつけるようなことはせず、対応しうる事については、良くスタッフと相談した上で対応できるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ対策として中々地域資源を活用できていないが、理美容や受診など不要不急以外の内容においては安全安心できる暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医療機関の山本医院と連携し日々往診を受け対応しているが、必要に応じて他科受診を受け、またご家族の希望するかかりつけ医への受診も行いながら適切に医療が受けられるよう支援している。	すぐ近くに母体となる医療法人の病院があり、定期的な訪問診療と訪問看護のほか24時間365日オンコール体制で対応しています。利用者のほとんどが同院の医師をかかりつけ医に選んでいますが、それ以外の専門科や馴染みの病院での受診も可能です。利用者の指定する病院での受診については家族同行が原則ですが、臨機応変に職員が支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問が来所し情報共有を行い、また毎日山本医院・訪看と申し送りを行い、日々の状態や異常気付きを報告し、常時相談・対応できる体制が取れている。必要時は受診や看護を受けることができる。		

己 自 部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者 との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうし た場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し、書面で情報 提供を行い、以降は電話等で病院のMSW、ま たご家族と必要時連絡を行い情報共有に努め ている。退院前は訪看や本院NSと病院を訪れ 退院前カンファレンスに参加して情報共有に努 めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段 階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でき ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化対応・終末期ケア対応指針 と看取りに関する指針を説明し同意を得てい る。また医療職がスタッフとしていないホームで ある為常時の吸引や嚥下困難など機能低下が 考えられる場合には早い内からご家族へ説明 し今後の方向性を把握し対応している。また必 要時は本院Dr. より説明をしてもらいご理解頂 けるよう努めている。	系列法人の山本医院との連携により、過去4例 の看取り実績があります。事業所では「重度化対 応・終末期ケア対応指針」や「看取りに関する指 針」を明文化し、入所時に利用者や家族に説明 し、同意を得るほか、状況に応じて本人や家族 の意向を確認しながら対応しています。管理者 は職員の過剰負担にならないよう、勉強会や看 取り後のカンファレンスを行い、メンタルケアに配 慮しています。看取りを経験した職員からは「貴 重な人生の最後に関わられて人として成長できた」 との声も聞かれました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている	急変や異常時は、本院や訪看に電話連絡を行 い指示を受け対応している。対応内容は今後も 繰り返し必要となるスキルである為、申し送り で繋げ実践できるよう情報を伝え合うよう努力し ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、 地域との協力体制を築いている	年に3回消防・防災訓練を行っている。今年は コロナ発生により三密を避けるようスタッフは行 動しているため訓練も教養型とし実地訓練は行 えていない。法人内の防災委員会もストップし ている。大まかな災害対策はスタッフ周知でき ているが詳細の把握はできていないと考えられ、 もう少し打合せ等を行う機会が必要であると感 じている。	通常5月と11月に年2回の消防・防災避難訓練の ほか、9月に同法人の老健で行われる防災訓練 や、地域で行われる防災訓練にも参加していま す。コロナ禍においては避難訓練が中止され、ビ デオ講座に代わりました。また、運営推進委員 会では地域の代表者から水害リスクの高い地域 性について指摘があり、危機意識を共有してい ます。備蓄は消費期限を確認しながら3日分の水 と食料、カセットコンロ等を確保しています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者毎の個性に合わせることや、よそよそしい印象を与えないよう親しみを持ってフランクな表現で言葉かけを行っている。またその時々々のテンションや状況により声かけの仕方を変える等工夫し柔軟に対応。上から目線の言葉遣いにならないよう注意している。	管理者は親しみの中にも、利用者の尊厳を傷つけない言葉づかいに細心の注意を払っています。職員から不適切な言動や声かけが見受けられた際は、カンファレンスを開いて尊厳について話し合い、職員が業務上のストレスを抱えていないか等、メンタルヘルスにも配慮しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつはかき氷が食べたいと希望がでると変更するなどしTVや音楽についても何が見たいか聞きたいか尋ねる、また選択できるようなアプローチをして個人・小集団の意向に添うよう提供を心がけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事やおやつ、トイレ・入浴・就寝時間等も定時や予定にこだわりすぎずその時の訴えや希望で時間をずらすなどしている。その分生活リズムが乱れないよう本人と良く話をしたり説明するなどして自己決定できるよう促している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に添って衣類をコーディネートしたり、寒がり暑がりの調整、膝掛けの提供、クリームを顔に塗ってもらう等の支援を行っている。特に希望もないが化粧は行っていない。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る事を把握しおかずのとりわけや野菜をちぎる、テーブル拭きや皿洗いなどそれぞれ能力に合わせスタッフがサポートに入り共に実行している。	食事は利用者一人ひとりの嚥下の状態に応じた状態で提供しています。3食ともご飯とみそ汁はユニットのキッチンで調理し、おかずは季節料理や郷土料理など多彩な調理済みメニューを再加熱する「クックチル」方式で提供しています。炊き上がるご飯の香りが立ち込めるリビングでは、職員と一緒におかずの盛り付けや食後の片付けをする利用者の姿が見られます。また、季節感を味合える果物やアイスクリームのほか、ホットプレートで作りながら食べるお好み焼きやクレープなどのおやつタイムは、利用者の楽しみの一つになっています。コロナ禍で外出ができない中、寿司の出前も好評です。

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれの能力に応じて食形態を設定している。食事・水分量は毎回チェック記録し、水分が進まない方にはジュースを提供する等個別に対応。また半年に1回栄養スクリーニングを行い老健の栄養士とも連携を図り専門職の意見を取り入れ実施している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施。疑問点については月に1回歯科衛生士に口腔指導を受けアドバイスを活かしながら実施できている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの際は毎回排泄チェック表に記録。全員を定時トイレ誘導するなど画一的にせず、入居者毎の排泄パターンを把握し日々支援している。また皮膚の状態や尿量・心地よさ等から適切にオムツ類を使用できるよう検討しながら実行している。	「排泄で大切なのはトイレでの排泄と自尊心を傷つけないこと」と考えるホームでは、排泄チェックリストに基づき一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に適したタイミングでさり気なくトイレ誘導を行っています。入所後、薄型のパットになり、紙パンツの使用量が減った利用者が多くいます。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量の確認やヨーグルトなど乳製品の個別対応、また体操など体を動かす運動の機会をもうけている。排便状態が良くない方については水分強化や訪看へ相談し下剤の調整の依頼を行うなどして日頃よりしっかり観察できている。		

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかに入浴日の設定はあるが入居者の特性に合わせて午前・午後と時間帯を調整したり日にちをずらしたりして気持ちよく入って頂けるよう調整している。また皮膚の状態や尿便失禁なども考慮した上で柔軟に対応できるようになってきている。	家庭タイプの個浴で1人または2人介助を行っています。入浴は原則週2回ですが、夜間帯を除いて時間や回数を限定せず、利用者の気分や体調、排泄のタイミングや状態に合わせて柔軟に行っています。レビー小体型認知症の利用者には、気分が落ち着いているときに声をかけることで、スムーズな入浴につなげています。ゆず湯や菖蒲湯など季節のお風呂も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者毎の希望や年齢・体力、またその時の状態に合わせてベッド臥床やソファを活用し休息の機会を作っている。また室温や寝具の調整を行い快適に過ごせるよう心がけ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬類はスタッフが管理し薬情やお薬手帳、また医療職や薬剤士と連携しながら副作用等観察を行い、日々申し送りや情報交換を行い症状等の変化の対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に記入してもらったアンケートやご家族・ご本人から聞き取った内容をホーム内での生活に取り入れそれぞれ入居者が楽しく無理なく過ごせるよう支援している。コロナにより外出・散歩が出来ない為、ベランダで外気に触れ気分転換を図る機会を増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナによる外出中止となるまでは、スタッフと散歩やご家族と外出を促していたが、ここ数ヶ月は不要不急の外出は中止としている。ストレス軽減を図るためベランダで外気に触れる機会を増やすよう努めたり、TVでお祭りや花火など馴染みの映像を流すなどし代替えている。	通常、利用者は職員や家族と一緒に近くコンビニや公園などへ「1ブロック散歩」に出かけています。コロナ禍で外出ができない中、現在はそれに代わるものとして、ベランダでの外気浴や、朝夕ホーム内での歌体操などで機能維持やストレス解消に努めています。春夏には大型テレビで桜や花火の映像を映しながら、お菓子やかき氷を食べて外出気分を味わいました。	
50					

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望により事務所でこづかい程度の金額を預かっているケースはあるが、現在はコロナ対策により外出の機会が無いため預かるのみとなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナによりご家族の面会が制限される中、ご家族から手紙をかかせてほしいとの希望で入居者に促したり、電話を取り次ぎ解りやすく話の間に入る等支援している。コロナの中TV電話の対応が追いついていない。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、以前と大きな変更はなく転倒リスクになるような物品は置かないよう気をつけ、定期的に飾りを変えるなどして季節感を感じてもらえるよう心がけ実行している。歌やTVが好きとそれぞれ好むものが違う為、音が騒音とならないよう気を配り心地よい空間作りに努めている。	広い廊下や高い天井をもつ館内は明るく清潔感にあふれ、気温・湿度管理や換気が行き届いています。カウンターキッチンのある居間には食卓の前に大型テレビが置かれ、目につく位置に職員が手作りの大きな日付や四季折々のクラフトを飾って、季節感や日にちが分かるようにしています。フロアーの左右にある廊下を挟んで中央に配置した広いトイレや浴室は、通路の両側2カ所に扉があり、どの居室からも出入りできる便利な設計です。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他ソファも2台ある為、その時々気持ちや活動内容などでそれぞれが気持ちよく過ごせるよう入居者を誘導するなどしてメンタルケアにも努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と協力し、安全面を考慮した上でご本人の使い慣れた物や、TV・ラジカセ等好きな物を設置し居室が落ち着ける場所となるよう努めている。面会が中止中であり再開できても15分以内など制限がかかり居室の整頓がおいつかないケースがある。	居室には電動ベッドとタンス、洗面台、カーテンを備えています。扉には表札のほか、居室を間違えないよう利用者のキャラクターや、利用者にとって思い入れのある物のイラストを貼り付けて工夫しています。利用者や家族は小机やテレビ、ラジカセ、歌謡曲のカセットテープなどを持ち込み、写真や雑貨、掛け時計などを飾っています。利用者は家族が訪れた際にカフェテーブルでお茶を飲んだり、お気に入り歌手の歌謡曲を聴きながら眠りについたりしています。

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者にとって危険となるものは設置せず、トイレの札やその他貼り紙をして解りやすくなうよう工夫し混乱無く過ごせるよう努めている。		